

## 子ども・若者アンケートについて(案)

### 1 アンケート実施の経緯

---

当初の想定では、ワークショップ形式による子ども・若者の意見交換の場を設定し、意見収集を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防のため、3つの密を避ける観点から、アンケートにより対応することとする。

※ 令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、ワークショップ形式での開催を検討する。

### 2 対象と収集方法

---

#### (1) 子どもアンケート

- ① 年齢 : 小学5年生、中学2年生
- ② 配布数 : 891人(小学生396人、中学生495人)(想定)
- ③ 手法 : 市内を4エリアに分割し、各エリアで最多生徒数の小・中学校に依頼

#### (2) 若者アンケート

- ① 年齢 : 住民基本台帳から無作為抽出した15~39歳の市民(義務教育終了後)
- ② 配布数 : 2,000人
- ③ 手法 : 郵送で調査依頼し、回答はWEBアンケートで受付

### 3 想定スケジュール

---

- 9月24日 第1回検討委員会にて、アンケート案について協議  
⇒ 委員からの意見を踏まえて、検討・修正し、教育委員会と調整

子どもアンケート	若者アンケート
・11月中旬 小・中学校に配布	・11月中旬 発送・WEB受付開始
・12月上旬 アンケート回収	・12月中旬 アンケートメ

- 令和3年2月 委員にメールにて結果共有
- 令和3年3月 第6回検討委員会にて結果報告

#### 4 アンケートの目的

条例制定にあたっての、子ども・若者の現状把握のため、意識調査を行う。  
結果は、条例検討過程において、条例案の方向性を確認するために活用する。

#### 5 質問項目（子ども・若者共通）

##### ■方向性1：切れ目ない相互協力・相互支援

(1) 次のことについて、あなたの考えに近いものはどれですか。」

(あてはまる／ややあてはまる／ややあてはまらない／あてはまらない)

	質問項目	わかること	否定派への対応(例)
1	悩み事があるときには、ひとりで我慢せず、家族や友人など、周りの人に相談する。	主体的な問題解決に向けた意識①	気軽に相談できる環境づくり、周囲の見守り、助けを求めてよいという意識の醸成
2	悩み事があるときには、悩みの解消につながる情報について調べる。	主体的な問題解決に向けた意識②	周囲からの積極的な情報提供、解決に向けて行動する意識の醸成
3	自分が困ったときには、相談にのってくれたり助けてくれる人がいる。	「困った時には誰かに助けてもらえる」という意識	支援機関の積極的な周知
4	家族や友人など、悩んでいる人がいたら、相談にのったり手助けをする。	支援側の意識	支援する側の役割も担っているという意識の醸成

##### ■方向性2：まちづくりへの参画・意見表明

(2) あなたが住んでいるまちをよくするために、意見を言ったり、話し合ったり、活動したりすることについて、あなたの考えに近いものはどれですか。

(あてはまる／ややあてはまる／ややあてはまらない／あてはまらない)

	質問項目	わかること
1	自分の興味のある内容や、家の近所のことなど、身近な内容についてであれば参加したい。	前提として、まちづくりへの参画ニーズは一定程度あることから、手法に対する子ども・若者のニーズを確認。  ⇒参画機会の確保には、手法の工夫が有効であることを確認。
2	同じくらいの年齢の人たちで集まったり活動したりするものならば参加したい。	
3	アンケートなど、時間があるときに意見を伝えられるものであれば参加したい。	
4	みんなで意見を話し合う場であれば参加したい。	
5	具体的な取組を実現するものであれば参加したい。	